アマチュア・オーケストラ　合唱団

新響・鯨特別演奏会

交響曲第8番　ロ短調　F.シューベルト

第1楽章……Allegro moderato
第2楽章……Andante con moto

レクイエム　W.A.モーツアルト

I……INTROITUS
II……KYRIE
III……SEQUENZ
IV……OFFERTORIUM
V……SANCTUS
VI……AGNUS DEI
VII……COMMUNIO

指揮：芥川也寸志
合唱指揮：中村健
独唱：Sop. 常森寿子
Alt. 志村年子
Ten. 金谷良三
Bass. 高橋大海
合唱：合唱団"鯨"
管弦楽：新交響楽団

'75. 4. 23 (Wed.) 7：00 p.m. 文京公会堂



——音楽監督・常任指揮者——

芥川也寸志

1925年　東京生れ。
1949年　東京音楽学校研究科作曲部を卒業。
新響発足以来、常任指揮者、音楽監督。
「音楽は創造的な感性の発露である。従ってその営みは作り手、弾き手、聴き手の区別なく様々な形で存在する。現在ではプロの作曲家、プロの弾き手、プロの聴き手（音楽評論家）という様に分化してしまったが本来ならば、作り手→弾き手→聴き手→作り手という循環の中にこそ、真の音楽の営みが存在する。」（著書「音楽の基礎」より一部抜萃）その意味で「アマチュアにはプロにない魅力がある筈だ。」というのが氏の信念である。



——合唱指揮——

中村　健

1950年　神戸生れ。10才の頃より神戸中央合唱団の伴奏をする。
1972年、合唱団「鯨」の常任指揮者に就任。1973年、東京芸術大学音楽部作曲科卒業、同年大学院指揮専門課程入学。在学中。
Vögelein. Chorの指揮者となる。　作曲を長谷川良夫、小林秀雄、飯田正紀、指揮をErbin Born. 三石精一氏等に師事。
五十嵐喜芳、丹羽勝海、成田絵智子、友竹正則氏等のピアノ伴奏者として共演多数。

アマチュア初のストラビンスキー３部作一挙演奏

——新交響楽団第２９回定期演奏会——

曲　　目　舞踊組曲「火の鳥」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ストラビンスキー
舞踊組曲「ペトルーシュカ」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ストラビンスキー
舞踊組曲「春の祭典」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ストラビンスキー
指　　揮　芥川也寸志
日時・会場　昭和50年６月１日(日) ７時　渋谷公会堂　**入場料**　S：1000　A：800　B：500(全席指定)

ソプラノ **常森寿子**



藤原オペラの《カルメン》のミカエラでオペラにデビュー。1968年渡伊、ローマ、サンタ・チェチリア音楽院、及びミラノにて学んだ。1970年、イタリアのロニーゴ国際コンクールで第二位、ジュネーブ国際コンクールで銀賞を受賞。1971年帰国し、《フィガロの結婚》のスザンナを歌い好評を博した。1973年2月、スペインのテノール、ラビルヒェンと共演した《カルメン》のミカエラでは絶賛を博した。よく通る高音域と安定した歌唱力は衆目の認める所である。《リゴレット》のジルダ、《ルチア》のタイトル・ロール等も持ち役であるが、《フィガロの結婚》のスザンナは、ヨーロッパの主要歌劇場でも第一級で通ると指揮者クルト・ヴェス氏より折紙をつけられている。

アルト **志村年子**



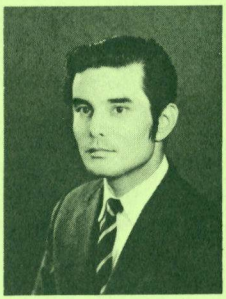
1967年フランクフルト国立音楽大学へ留学、1970年卒業。コンサート、エグザメンに合格、最優秀賞を受賞。70年に帰国し7月デビューリサイタルを開催。

オペラには1917年二期会の《ホフマン物語》の母の声でデビューし、72年《ワルキューレ》のロスヴァイゼ、73年《さまよえるオランダ人》のマリーに出演。

コンサートでは《メサイア》、《ハ短調ミサ》(モーツアルト)、《ラ・デウム》(コダーイ)、《クリスマス・オラトリオ》、《第九》などを主要オーケストラと共演。なかで1973年12月の小沢征爾指揮、新日本フィルハーモニー交響楽団と共演した《第九》公演では絶賛を博した。

現在　桐朋学園音楽大学講師、二期会会員。

テノール **金谷良三**



東京混声合唱団の創立に参加し現在に至る。その間、小沢征爾、岩城宏之等の著名な指揮者と《第九》、《レクイエム》などを共演、多くの指揮者、独唱者、オーケストラとの共演は数え切れない。オペラもＮＨＫ創作オペラの夕べや都民劇場、藤原歌劇団公演に参加し、レパートリーは年を追って増え、スピントテナーという声質上我国でも貴重なポストを得ている。又宗教曲(オラトリオ、ミサレクイエム等)には人一倍の熱意と成果を示しており、最近公演に参加したものだけでも《メサイア》、《天地創造》、《ロ短調ミサ》、《クリスマス・オラトリオ》、《ヨハネ受難曲》、《ハ短調ミサ》、《レクイエム》等、宗教曲のレパートリーが急激に増加、好評を博している。

現在　東京混声合唱団所属、同志社女子大学講師。

バリトン **高橋大海**



1961年芸大定期公演《レクイエム(フォーレ)》でデビュー。以後《第九》、《マタイ受難曲》、《コーヒー・カンタータ》、《ロ短調ミサ》等を歌いオラトリオ歌手としての地位を確立する一方、オペラでも活躍。《タンホイザー》《セビリアの理髪師》《リゴレット》《ボエーム》等二期会公演に次々に出演、演唱力の充実を示している。1969年リサイタルを開き、同年6月より71年にかけて渡欧し、ミラノでサンクエ、ミュンヘンでロイターに師事、かたわらベニス、ザルツブルグ、ミュンヘンで演奏。73年には《魔笛》のザラストロに出演し絶賛を博し、同年オペラで活躍した歌手を賞するために設定された「ウィンナワルト賞」を受賞した。二期会会員。

レクイエムについて

レクイエムは〈死者のためのミサ〉ともいわれる。人は死して墓に眠る。最後の審判の日に主キリストが再臨し、生者はもちろん、墓からよびおこされた死者も裁判され、善き者は天国へ、悪しき者は地獄に追いやられ、この世の終末を迎える。

死者は自ら祈ることはできない。それ故，生者がミサをおこない、死者のためにその功徳の及ばんことを願う。これが〈レクイエム〉である。

レクイエムの名はこのミサの最初にうたわれる入祭誦がレクイエム・エテルナム（永遠の安息を……）で始まるからである。正しくは MISSA DEFUNCTORUM（はたらきをやめたもののためのミサ）といい鎮魂ミサ曲の訳は適切でない。レクイエムは毎年11月２日の万霊節にかならずおこない、人が死んだときや、死者の記念日にも随時おこなわれる。

レクイエムにおいては、普通のミサ通常文のうち、グロリアとクレドは使用されず、レクイエム固有文として入祭誦 Requiem（死者に安らかな眠りと恵みを乞う祈り）、詠誦 Absolve Domine（死者の罪の許しを乞う祈り）、続誦 Diesirae（怒りの日――最後の審判の日の恐ろしさを歌い、この日に恵みをくだすようにとの祈り）、奉献誦 Domine Jesu Christe（死者が地獄に落ちないようにとの祈り）、ミサに引き続いておこなわれる赦禱式にとなえられる応誦 Libera me Domine（神の怒りをまぬがれるための祈り）、などが使用される。

これらにはグレゴリオ聖歌の旋律が配してあるが、式典を荘厳にするためにこれら全部の中から部分的に作曲することができる。特に大きなレクイエムにおいては続誦ディエス・イーレを幾段かに分け、第３節 Tuba mirum（霊妙なラッパがなりわたり）、第９節 Recordare（我を記憶したまえ）、第19節 Pie Jesu Domine（主なるイエズスよ、我らに安息を……）など、訴えかけの強い音楽に作曲してることが多い。

レクイエムは生前諸種の功労のあった人の記念日には極めて盛大におこなうことが多く、ベルリオーズ、ヴェルディなどの作がそれに値している。最近では故ケネディ大統領の死を悼み、ボストン交響楽団がエーリッヒ・ラインスドルフの指揮でモーツァルトのレクイエムを典礼形式でおこなっている。我が国においても、故吉田元首相の霊を慰めるため、各放送局が終日レクイエムを流していたのを記憶している方は多いだろう。

モーツァルトのレクイエム

モーツァルトの宗教音楽は、現代的認識からしても決して教会音楽の模範ではなく、彼の作品のうちでも、もっとも誤解されることが多い。しかしザルツブルク時代の伝統的手法による作品、ウィーンに定住後の独特な作品などは宗教音楽として立派なものであるばかりでなく、典礼音楽として全くすばらしいものが多いのである。

日本においても彼の「レクイエム」が他の作曲家のものよりも多く演奏されていることによって示されている。

モーツァルトの「レクイエム」は、それにまつわる伝説と、作曲が未完に終ったということでも有名である。

ただならぬ風　で　灰色の衣服をまとったシュトウツバッハ伯爵の家令を　衰弱しきったモーツァルトが死の使者と考えたとしても、さほど不思議はないのかもしれぬ。その家令は、1791年にモーツァルトのもとを訪問して、「レクイエム」の作曲を依頼している。

作曲に関しては、実際どこまでがモーツァルトの作であり、どこまでが弟子のヨゼフ・アイブラーとアントン・ジェスマイヤーの補筆したものか正確に知ることはできない。その意味でこのレクイエムは、ハ短調ミサ曲と異なりその形式においてでなく、演奏上の霊感による着想の水準が均質な曲とはいえない。また一部の人々が熱心に望んでいるようなモーツァルト最高の業績とするには値せぬかもしれない。

しかし心の奥深くまで印象づけるようなかけがえのない精神性を持った作品であることには相違ないのである。

INTROITUS……入祭誦
Requiem aeternam（永遠の安息を）
KYRIE……あわれみの讃歌
SEQUENTIA
Dies irae（怒りの日）Tuba mirum（不思議なラッパの音）Rex tremendae（みいつの大王）Recordae（慈悲深きイエズス）Confutatis（判決を受けてのろわれたものは）Lacrimosa（涙の日よ）
OFFERTORIUM……奉献誦
Domine Jesu（主イエズスよ）Hostias（称讃のいけにえ）
SANCTUS……感謝の讃歌
Sanctus（聖なるかな）Benedictus（祝せられますように）
AGNUS DEI……平和の讃歌
COMMUNIO……聖体拝領誦
Lux aeterna（永遠の光を）

合唱団「鯨」第１８回定期演奏会

曲　　目　「カルメン」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ビ　ゼ　ー
演奏会形式による「カルメン」ハイライトを一流ソリスト多数を迎えて「鯨」が上演します。
編曲・指揮　中　村　　健
日時・会場　1975年10月15日（水）共共立講堂

新響維持会員募集中!!

新響は維持会員の方々の大きなささえにより前進してきました。維持会員の方々の力により多くの楽器などが購入できました。

◆年額１人　1800円以上
◆申し込み以後１年間ご案内をさしあげる２回の演奏会にご招待いたします。
◆定期演奏会のプログラムにご芳名を掲載します。
◆ご来場の方にはプログラムを贈呈。
◆その他新響の主催する全ての演奏会入場券が優先的に百円割引で購入できます。
◆ご申込は、維持会員申込と付記して住所・氏名・年令・職業明記の上現金書留で下記迄
〒160 新宿区須賀町14大湊ビル新交響楽団　357－5255

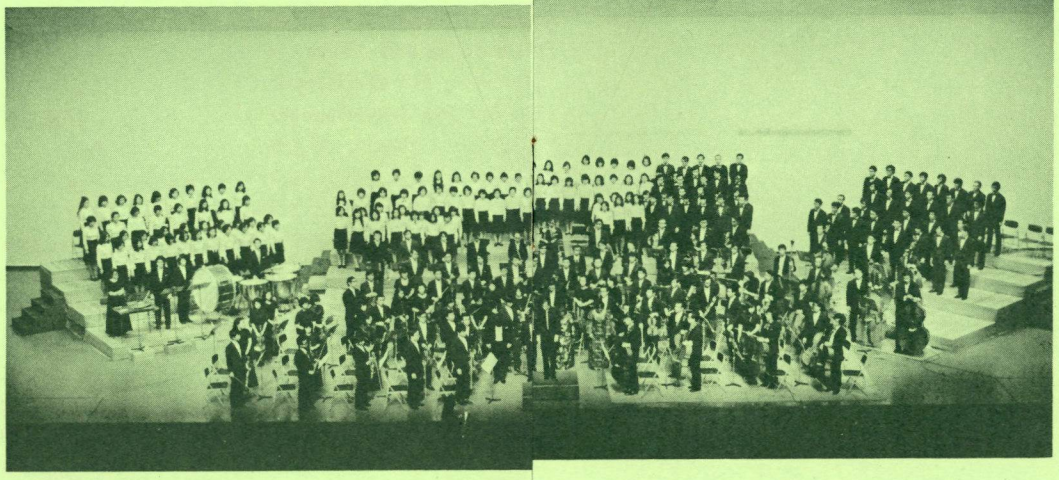
アマチュア・オーケストラ

新交響楽団

新交響楽団は昭和31年の創立、主婦、サラリーマン、学生など、音楽を職業としない百名あまりの団員からなる純然たるアマチュアオーケストラです。

創立以来の常任指揮者・音楽監督である芥川也寸志氏は、常々、「アマチュアにはプロには無い良さがある。」と主張しておられ、その信念を情熱の糧として、19年間献身的な指導を続けてこられました。プロの人々から見れば、音楽の喜びを収入を得るためでなく、無目的的に追求できるアマチュア演奏家とは、うらやましいものであり、ほゝえましいものであり、又、じれったいものであろうと思います。事実、常に赤字を抱えながらこゝまで続けてきた原動力は、まさに純粋な音楽の喜びであると言えるでしょう。

しかし日常においては、別に職業を持つ私達にとって、週一回の欠かせない練習、チケットの販売、各種の事務など、時によっては苦痛とも感じられる負担にも耐えねばなりません。又、アマチュアとは云え、貴重な時間をさいて足を運んで来られるお客様に対して粗末な演奏を聞かせる事は、お客様への侮辱であり、又、自らの理想を踏みにじる事でもあります。従って、私達は聴衆の皆様と音楽の喜びを共有しているのだという共感と同時に、演奏者としての厳しい心構えを忘れてはならないと考えております。アマチュアは、自由な発想が許される代りに規制がない為、とかく緊張がゆるみがちです。幸いに42年秋のソビエト演奏旅行、44年秋の沖縄九州芸術祭参加、47年暮のＦＭ東京出演等の実績から現在日本で望み得る最高レベルのアマチュアオーケストラとの評価を受けていますが、これを裏切らぬ様、出来る丈多くの人に私達の演奏を聴いて頂ける様にと考えております。



合唱団“鯨”

私達　合唱団「鯨」は1967年12月芥川也寸志先生を中心として、サラリーマン、OLをはじめ家庭の主婦に至るまで幅広い各層からのただ音楽が本当に好きでたまらない人々が集って結成されたアマチュア合唱団です。

名称「鯨」は大海原を悠々と遊ぶ鯨の様に限りない大きな夢を抱いて、それを合唱という形を通して表現しようという主旨で名付けられました。この「鯨」が「大鯨」となって大海をかけめぐることができる様に、私達団員は、各々社会的立場は異っていようとも、力を一つに合わせて努力しております。

現代の様に激動する社会の中で、人間のタイプがいかに複雑多様に分裂しようとも、真に美しい音楽を追求し、心のハーモニーを求めようとする情熱は、各々の人々が、各々の形をもって、その意味・意義にとらわれず、人の心を打つものであり、それは真実追求の心の中核にひびき、そこに永久に消えない余韻を残すものと思います。

そして、音楽こそ人間の真実の思いを、他の人々に、じかに最もわかりやすく真向からぶつけてゆけるものと信じております。私達「鯨」の面々は、その心の琴線を打つような「真にいのちあるもの」を求めてやみません。

今年になってから、新しく仲間入りしたメンバーが一段とふえ、団内に新しい新鮮な空気を吹き込んで、又、今までとはちがった一面を、みなさまにお聞かせすることが出来ると思いますが、今回とは限らず、これからもさらに、大きく大きく成長してゆきたいと思っております。

本日共演する兄貴分の「新交響楽団」とのコンビ演奏会は、発足以来十数回になります。今後共、ともども宜敷くお願いいたします。

新響・団員募集!!

――ストラビンスキー３部作を一緒に演奏しませんか。――
（５月合宿参加の方まで）

入団希望者に対しては原則として月の最終日曜日の午后オーディションを行い新響のレベル、パート人員の必要度、本人の環境、入団意志などを考慮して決定します。

＜オーデション課題曲＞

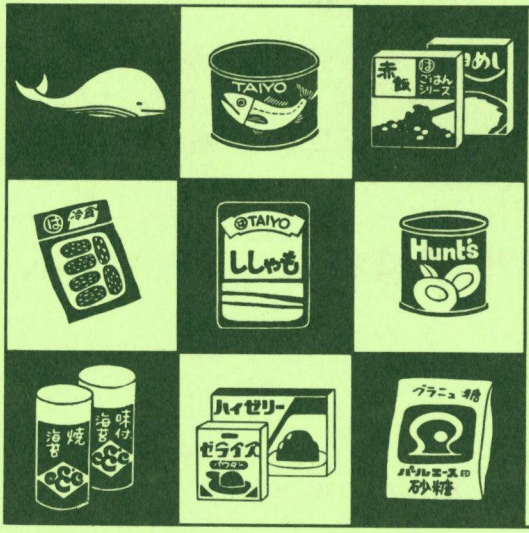
Vn モーツアルト　協奏曲№5，1楽章
Vla エックレス　ソナタ２楽章
Vc バ　ッ　ハ　無伴奏組曲第1番より「プレリュード」と「クーラント」
Cb カプッツィ　協奏曲１楽章
El　モーツアルト　協奏曲二長第１楽章
Ob ヘ ン デ ル　ソナタ№1，1楽章
Fg モーツアルト　協奏曲１楽章
Hr モーツアルト　協奏曲№3，2楽章
Tp ハ イ ド ン　協奏曲１楽章
Tb R.コルサコフ　協奏曲1，2楽章
Tub ワーグナー　マイスタージンガー

＜問合せ先＞①団員をご存知の方は団員を通して
②それ以外の方は都河(468-4703)まで

合唱団“鯨”団員募集

“鯨”は、私達自身の手で造り上げていく合唱団です。
どなたでも御入団になれますので、ぜひ練習を見学にいらして下さい。

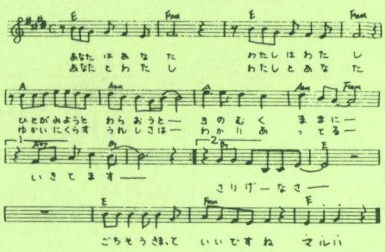
＜指　　揮＞　中村　健
＜定期練習＞　毎週火曜日　渋谷カワイ楽器７階 ミュージックサロン　P.M. 6：30～9：00
＜申 込 先＞　〒160 新宿区須賀町14大湊ビル　合唱団“鯨”事務所（357）5255（但し平日午後）
（入団費500円　団費700円）



ごちそうさまって　いいですね

曲・加藤和彦
詩・喜多條忠
歌・山県すみ子

'75 ㊗ＣＭソング



料理する喜び、食べる楽しさ。
12CH「世界の料理ショウ」は、新鮮なタッチで
男性も楽しめます。（㊗一社提供、日曜午前11：30より）

世界のおいしさをアレンジする総合食品メーカー

㊗ 大洋漁業